

《2015年(平成27年)度入学生用》

建築学部

各 学 科 共 通

【A群】	
総合教育科目	a) 総合文化科目
	b) 自然科学系科目
	c) 外国語科目
	d) 保健体育科目
	e) 自由研究科目
	f) キャリア支援科目

【A群】総合教育科目

a) 総合文化科目

■総合文化科目の意義

すべての学問と同じく、建築もそれだけで独立したものではなく、他のさまざまな学問や、歴史や社会との複雑な関連の中ではじめて成り立つ。とりわけ今日では、科学技術や産業のあり方について、さまざまな角度からの再検討、再評価がおこなわれ、全人類的な視野に立った新しい展望の開拓が期待されている。したがって大学に学ぶ者は、狭い意味での専門分野だけではなく、できるだけ多くの学問分野に触れることが望まれる。広い知識、多様な関心、柔軟な感性こそが、専門領域での真に創造的な仕事や、現実社会での的確な判断力、責任ある態度を生み出すのである。

総合文化科目は、このような意味で専門教育を外側から支え、研究者として、建築の設計者や技術者として、社会人として、できるだけゆたかな可能性と創造性をもった人間の形成に役立つことをめざして開設される。したがってここには、いわゆる人文科学、社会科学を中心として、広大な「知」の世界への入口となるような科目が豊富に集められている。それらは、現代世界の知的状況を反映して、以下の5類に区分されている。また、導入的な科目として「人文・社会科学の基礎」が設けられている。

◇第1類「人間の探究」:「人間とは何か」という、人間がかならず問わなければならない根本問題をめぐる科目群で、広い意味での哲学的な学問を中心とする。

◇第2類「社会の科学」:現代社会の基本的しくみや運動について、社会人として不可欠な知識を与えながら、社会科学的なものの方を紹介し、深めていく科目群である。

◇第3類「世界と日本」:あらゆることが国際化し、全地球化していく現在、世界と日本の文化・歴史・現状について、広く深い知識をもつことがますます重要になっている。そうした地球的視野の開発をめざす科目群である。

◇第4類「芸術と表現」:美や芸術に対する豊かな感性を養い、その感性をさらに豊かに表現していくこと、こうした営みに関連する科目群である。

◇第5類「科学と文明」：現代文明を築きあげてきた科学技術とこれをめぐる諸問題との交流について、人文科学、社会科学、身体科学的な諸観点から学ぶ科目群である。

総合文化科目は「選択必修科目」であるが、自由枠を利用してより多く履修することが可能である。どの科目を履修するかは各自の自由に委ねられている。「シラバス（授業計画）」をよく読んで決定してほしい。選択のめやすとしては、5つの類からバランスよく受講することが望まれるが、特定の類の科目群にとくに興味が湧き、深く勉強してみたい場合には、1つの類から集中して受講することも意味のある履修態度といえよう。

総合文化科目は専門科目の前段階としての教育課程ではないので、1～2年次にだけ受講するべきものではない。専門科目の学習と並行して、1～4年次にわたって履修することが望ましい。なお、新宿校舎で開かれる科目は、主に3～4年生が受講することになるため、それぞれの学問分野の中ではやや進んだ内容のものが多くなっている。

b) 自然科学系科目

■カリキュラムの基本理念

現代の科学技術は自然科学の大きな体系の上に成立している。科学技術の深い内容を理解するためには、自然科学との関係を十分に知ることが重要であり、その自然科学の基礎について勉強する。基礎・教養教育部門の教員が責任を持って教育にあたる。

講義科目の「数学」、「物理」、「化学」、「生物」はどのような分野に進む人にとっても重要な基礎知識である。これらについて広い視野を持つことは、各人が独自の道を切り開く上で大きな力になると信ずる。単に道具として理解するのではなく、自然現象をどのように捉え、表現しようとしているのか、また結果としてどんな描像を得ているかを理解してもらいたいと考えている。

また、現代を生きていく上で不可欠となったコンピュータの基礎について学ぶ「情報処理」の講義も用意しており、これをマスターしてのち、さらに専門的な知識を身につけて欲しい。

c) 外国語科目

■カリキュラムの基本理念

外国語科では、新しい国際化時代に対応し、幅のあるコミュニケーション技能を養うために、体系的かつ柔軟性を持たせたカリキュラムを編成している。

具体的には、卒業条件の8単位のうち、6単位は必修英語の科目で取得し、残り2単位は選択必修の科目から取得する。選択必修科目には、「応用英語」として Intensive English Course（夏期語学研修・春期語学研修）・Communicative English（コミュニケーション英語）・Mass Communication English・TOEICの英語研究等を設置し、また第二外国語として「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「中国語集中講座」（北京航空航天大学夏期語学研修）・「ロシア語」を設置している。

必修の英語科目は、総合的な力を養うべく、言語諸技能の有機的な教育を目指す。それぞれ次のように重点を置いている。つまり、「Introduction to Communicative English I/II」は音声言語に焦点をあてたコミュニケーションスキルを、「Basic Reading Skills I/II」は読みを通じた批評力を、「Basic Writing Skills I/II」は英語での文章作成スキルを学習し、英語による受信型・発信型両方のコミュニケーションスキルを養う。

また、選択必修の「応用英語」では、少人数クラスを原則とし、学生の積極的参加を求めている。

情報化時代の中で、外国語運用能力の重要性はますます高まってきている。積極的な語学学習の場としてもらいたい。

d) 保健体育科目

■カリキュラムの基本理念

今日の技術革新による生活環境の機械化・自動化は、身体活動の著しい省力化をもたらす。動かすことによって機能する人間の身体を蝕んでいる。また科学技術の急速な発展は、一方で地球環境の加速度的な変動をもたらす。数百

万年もの長い歴史の中で、ゆっくりと進化を続けてきた人類に脅威をもたらしている。次々と出現するこうした健康破壊の要因は、医学のめざましい進歩にもかかわらず人類を混迷の淵に追いやるかのようでもある。このような時代に生きる本学学生には、個人的立場からばかりでなく、将来の社会的責任を担うという立場から、「身体」と「健康」という視点において地球環境や人間生活のあり方に関心を向けて欲しい。

また新入生の多くは、受験のため身体的活動を抑えてきたために、運動不足とストレスの蓄積を痛感していることと思われる。そこで初年次は運動やスポーツの実践を通して、人間にとってファンダメンタルな欲求の充足を図り、低下した体力の早期回復とともに健全な心身の獲得を目指してもらいたい。また折に触れて身体・運動・健康等に関する最新の理論を学んだり、体力の測定と分析などを行って、自らが健康なライフスタイルを設計し、実践することのできる自己管理能力を養ってもらいたい。このようなねらいから、1年次通年で「身体・運動科学演習」を開講する。さらに今日および将来の社会に生きる学生が、健康で文化的な生活を送るためにも、また自己実現の良きパートナーとして、スポーツを生活の中に取り入れて欲しい。しかしながら建築学部では設計課題や実験等に追われ、意欲があってもクラブ等で自主的に活動する時間的ゆとりを持たない学生が多い。このような状況に対応し、2年次以降、卒業まで各自の履修計画に合わせて自由に選択できるよう多種目にわたる「生涯スポーツ」を開講する。（詳細は「保健体育科目履修の手引」を参照。）

e) 自由研究科目

■自由研究科目の意義

カリキュラムは学問の体系を踏まえて構成される。しかし、それらは歴史的な発展過程を反映した便宜的なものに過ぎない。我々の対象とする世界は、もっと広く相互に重なりあい、学問の境界は曖昧である。そのような視点から、柔軟な発想でテーマを設定し通常の授業とは違った味付けで、少人数教育を試みるのがこの科目である。諸君の興味のおもむくまま、実験を通し、あるいは原書講読を通して、学ぶことの楽しみをくみ取って欲しいと考えている。豊富なメニューが用意してあるので、積極的に参加し、通常の講義では得られない体験を積んで欲しい。この科目群で履修した単位も、卒業に必要な単位に算入される。

〔第1部〕

授業科目履修課程表(学則の別表第一)

総合教育科目(各学科共通)

《総合文化科目, 自然科学系科目, 外国語科目, 保健体育科目, 自由研究科目, キャリア支援科目》

2015年(平成27年)度入学生用

総合文化科目

△印=選択必修科目

区分	種別	科目名	単位数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								学位授与の方針					備考	
				1年		2年		3年		4年		1	2	3	4	5		
				前	後	前	後	前	後	前	後							
〔A群〕 総合文化 教育科目	△	建築ロジカルライティングⅠ※	2	1								○	◎	○				
		建築ロジカルライティングⅡ※	2	1								○	◎	○				
		総合文化アカデミックスキル※	2	1	1							○	◎	○				
	〔第1類〕 人間 の探 究	△	哲学とは何か	2	1	1			1		1		○	○	◎			
			哲学の根本問題	2	1	1							○	○	◎			
			哲学の現在	2	1	1							○	○	◎			
			倫理学の基礎	2	1	1							○	○	◎			
			現代社会の倫理	2	1	1							○	○	◎			
			宗教の見方	2	1	1							○	○	◎			
			世界の宗教	2	1	1							○	○	◎			
			心理学入門	2	1	1							○	○	◎			
			対人関係の心理学	2	1	1							○	○	◎			
			教育の思想	2	1	1		1		1			○	○	◎			
			文化と教育	2	1	1							○	○	◎			
			教育と社会	2	1	1			1	1			○	○	◎			
			〔第2類〕 社会 の科 学	△	歴史の見方	2	1	1						○	○	◎		
					現代社会と法	2	1	1		1		1		○	○	◎		注2)
					権利と法	2	1	1						○	○	◎		隔年開講<平成27年度休講>注2)
	政治と法	2			1	1						○	○	◎		隔年開講<平成28年度休講>注2)		
	政治システム論	2			1	1						○	○	◎				
	政治過程論	2			1	1						○	○	◎				
	経済学入門	2			1	1		1		1		○	○	◎				
	環境と経済	2			1	1						○	○	◎				
	日本経済論	2			1	1			1	1		○	○	◎				
	国際経済と金融	2			1	1						○	○	◎				
	経営学入門	2			1	1		1		1		○	○	◎				
	企業の理念と行動	2			1	1						○	○	◎				
	日本の企業経営	2			1	1			1	1		○	○	◎				
△	市民生活の社会学A	2	1	1						○	○	◎						
	市民生活の社会学B	2	1	1						○	○	◎						

注1)「標準履修学年と毎週授業時限数」欄の「1」印は、時間割上の主たる対象者を示す。(「履修の手引き」参照)。

注2)法学系科目(現代社会と法, 権利と法, 政治と法, 歴史と法, 比較憲法)は、各々日本国憲法1単位を含む。

※ 1年次指定選択必修科目

総合文化科目

△印＝選択必修科目

区分	種別	授業科目 科目名	単位数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								学位授与の方針					備考		
				1年		2年		3年		4年		1	2	3	4	5			
				前	後	前	後	前	後	前	後								
〔A群〕 総合文化 教育科目	〔第3類〕	△ 東西交流史	2		1		1		1		1		1	○		○	◎	隔年開講<平成28年度休講>注2) 隔年開講<平成27年度休講>注2)	
		△ 比較文化史	2		1		1							○		○	◎		
		△ 歴史と法	2		1		1		1		1		1	○		○	◎		
	△ 比較憲法	2		1		1		1		1		1	○		○	◎			
	△ 比較政治論	2		1		1							○		○	◎			
	世界と日本	△ 企業と経済発展	2	1		1								○		○	◎		
		△ 国際化と企業	2		1		1							○		○	◎		
		△ 世界の社会思想	2	1		1								○		○	◎		
	総合文化 教育科目	〔第4類〕	△ 日本の社会思想	2		1		1							○		○		◎
			△ 国際関係の基礎知識	2	1		1		1		1				○		○		◎
			△ 先進工業地域論	2		1		1							○		○	◎	
	総合文化 教育科目	〔第5類〕	△ 開発途上地域論	2		1		1		1		1			○		○	◎	
			△ 近代の文学	2	1		1								○		○	◎	
			△ 文章表現研究	2		1		1							○		○	◎	
			△ 日本の伝統芸能	2	1		1								○		○	◎	
			△ 作家とその世界	2		1		1							○		○	◎	
			△ 世界の文学A	2	1		1		1		1				○		○	◎	
			△ 世界の文学B	2		1		1		1		1			○		○	◎	
			△ 美術A※	2	1										○		○	◎	
			△ 美術B※	2		1									○		○	◎	
			△ 芸術と社会A	2	1		1		1		1				○		○	◎	
			△ 芸術と社会B	2		1		1		1		1			○		○	◎	
			△ 芸術学入門	2	1		1		1		1				○		○	◎	
			△ 芸術学各論	2		1		1		1		1			○		○	◎	
			総合文化 教育科目	〔第5類〕	△ 論理学入門	2	1		1		1		1				○		○
	△ 現代の論理学	2				1		1							○		○	◎	
	△ 科学と哲学	2				1		1		1		1			○		○	◎	
	△ 科学と宗教	2				1		1		1		1			○		○	◎	
	△ 科学技術と倫理	2				1		1							○		○	◎	
	△ 認知と心理	2				1		1							○		○	◎	
△ 近代科学の成立	2	1				1		1		1				○		○	◎		
△ 科学と社会	2				1		1		1		1			○		○	◎		
△ ヒトの身体と運動	2				1または1		1または1							○		○	◎		
△ 暮らしと健康の科学	2				1または1		1または1							○		○	◎		
△ 運動・スポーツ総論	2		1または1		1または1		1または1		1または1			○		○	◎				

注1)「標準履修学年と毎週授業時限数」欄の「1」印は、時間割上の主たる対象者を示す。(「履修の手引き」参照)。

注2) 法学系科目(現代社会と法、権利と法、政治と法、歴史と法、比較憲法)は、各々日本国憲法1単位を含む。

※ 1年次指定選択必修科目

自然科学系科目

△印＝選択必修科目

区分		種別	授業科目 科目名	単位数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								学位授与の方針					備考		
					1年		2年		3年		4年		1	2	3	4	5			
					前	後	前	後	前	後	前	後								
〔A群〕 総合 教育系 科目	b) 自然 科学 科目	△	基礎数学※	2	1								◎							
		△	微分積分Ⅰ※	2	1	1								◎						
		△	微分積分Ⅱ※	2	1	1								◎						
		△	物理学概論A※	2	1									◎						
		△	物理学概論B	2			1または1							◎						
		△	現代の物理学	2					1または1					◎						
		△	化学概論※	2	1									◎						
		△	化学研究法	2			1または1							◎						
		△	現代の化学	2					1					◎						
		△	情報処理入門※	2	1									◎		○				
		△	建築情報処理基礎	2				1						◎		○				
		△	生物学概論	2			1または1							◎						

注1)「標準履修学年と毎週授業時限数」欄の「1」印は、時間割上の主たる対象者を示す。(「履修の手引き」参照)。

※ 1年次指定選択必修科目

外国語科目

○印＝必修科目

△印＝選択必修科目

区分		種別	授業科目 科目名	単位数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								学位授与の方針					備考	
					1年		2年		3年		4年		1	2	3	4	5		
					前	後	前	後	前	後	前	後							
【A群】総合教育科目 C 外国語科目	必修英語	○	Basic English I	1	1							○		◎				夏期集中または春期集中	
		○	Basic English II	1	1								○		◎				
		○	Basic Communication I	1	1								○		◎				
		○	Basic Communication II	1	1								○		◎				
		○	Basic Academic English I	1		1							○		◎				
		○	Basic Academic English II	1		1							○		◎				
	応用英語	△	Intensive English Course	2	☆	☆	☆	☆					○		◎				夏期集中または春期集中
		△	Presentation in English Basic I	1			1	1					○		◎				
		△	Presentation in English Basic II	1				1	1				○		◎				
		△	Presentation in English Advanced I	1				1	1				○		◎				
		△	Presentation in English Advanced II	1				1	1	1			○		◎				
		△	Writing in English Basic I	1				1	1				○		◎				
		△	Writing in English Basic II	1				1	1	1			○		◎				
		△	Writing in English Advanced I	1				1	1				○		◎				
		△	Writing in English Advanced II	1				1	1				○		◎				
		△	Communication in English Basic I	1				1	1				○		◎				
		△	Communication in English Basic II	1				1	1				○		◎				
		△	Communication in English Advanced I	1				1	1				○		◎				
		△	Communication in English Advanced II	1				1	1				○		◎				
		△	Communicative English A	2	1	1							○		◎				
		△	Communicative English B	2	1	1							○		◎				
		△	Communicative English C	2				1	1				○		◎				
		△	Communicative English D	2				1	1				○		◎				
		△	Critical Reading	1				1					○		◎				
		△	Reading for Discussion	1					1				○		◎				
		△	Technology in Society	1					1				○		◎				
		△	Cultural Systems	1				1					○		◎				
		△	Globalization	1						1			○		◎				
		△	English Lecture Series/Workshops	1					注7)				○		◎				
		△	Conducting, Writing, and Presenting Research in English	1							1		○		◎				
	△	Mass Communication English A	2			1						○		◎					
	△	Mass Communication English B	2				1	1				○		◎					
	△	TOEICの英語研究 I	2	1	1	1	1	1				○		◎					
△	TOEICの英語研究 II	2	1	1	1	1	1				○		◎						
第二外国語	△	ドイツ語 I	2			1	1	1				◎					注1)		
	△	ドイツ語 II	2				1	1				◎							
	△	フランス語 I	2			1	1	1				◎							
	△	フランス語 II	2				1	1				◎							
	△	中国語 I	2			1	1	1				◎							
	△	中国語 II	2				1	1				◎							
	△	中国語集中講座	2			☆	☆	☆				◎							
△	ロシア語 I	2				1	1	1			◎								
△	ロシア語 II	2					1	1			◎								

注1) 第二外国語は、2年次から履修できる。

注2) 第二外国語のIIは、Iの単位を取得した者のみ受講できる。

注3) 応用英語に関しては「標準履修学年と毎週授業時限数」欄の「1」印の位置は、時間割上の主たる対象者を示すが、他の学年の受講を妨げない（「授業時間割表」及びキューボード参照）。

注4) 応用英語の「TOEICの英語研究」に関しては、履修希望者を最初の授業時にテストにより「TOEICの英語研究I」（レベル1）と「TOEICの英語研究II」（レベル2）に振り分ける。設置クラス数が限られている目下の状況から、原則として「TOEICの英語研究I」または「TOEICの英語研究II」のいずれかしか履修できない。

注5) Intensive English Course、及び中国語集中講座は、3週間程度の海外語学研修である。申し込み方法等は別途掲示等によって案内する。

注6) 「Reading for Discussion」は「Critical Reading」を履修したもののみ受講を認める。

注7) English Lecture Series/Workshopsは3、4年次の2年間にわたって履修する。

保健体育科目

○印＝必修科目 無印＝選択科目

授業科目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				学位授与の方針					備考				
区分	種別	科目名	単位数	1年		2年		3年		4年		1		2	3	4	5
				前	後	前	後	前	後	前	後						
【A群】 総合教育科目	d 保健体育科目	○ 身体・運動科学演習	2	1								○		○	◎		
		生涯スポーツA	1			1または1	1または1	1または1				○		○	◎		*2～4年対象
		生涯スポーツB	1			1または1	1または1	1または1				○		○	◎		*2～4年対象
		生涯スポーツC	1				1または1	1または1				○		○	◎		*3・4年対象

※ 詳細については「保健体育科目履修の手引」を参照すること。

※ 生涯スポーツCは、3年次以後の履修となる。

自由研究科目

無印＝選択科目

授業科目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				学位授与の方針					備考					
区分	種別	科目名	単位数	1年		2年		3年		4年		1		2	3	4	5	
				前	後	前	後	前	後	前	後							
【第I群】 総合教育科目	d 自由研究科目	歴史と人物	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		都市文化研究	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		<平成27年度休講>
		哲学書を読む	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		科学技術と倫理を考える	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		国際問題の学際的研究	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		現代社会論	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		比較社会文化研究	4	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		経済学説の研究	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		ロジカルライティングⅠ	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		ロジカルライティングⅡ	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		英語によるメディア研究とビデオ制作	4	1		1		1		1		1	○		◎	○		<平成27年度休講>
		英検準一級・二級の英語研究	4	1		1		1		1		1	○		◎	○		<平成27年度休講>
		アメリカ言語文化事情	4	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		現代物理の世界	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		<平成27年度休講>
		教師としての実践的力量的形成	2					1		1		1	○		◎	○		
		教育者のための遊びの指導法	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		<平成27年度前期(毎週)開講>
		教育実践記録を読む	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
		教育問題を考える	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		
機械の技術史	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		<平成27年度休講>		
複雑系の科学	2	1		1		1		1		1	○		◎	○		<平成27年度休講>		
ロシア語で学ぶ理工学	2							1		1	○		◎	○		<平成27年度休講>		

キャリア支援科目

無印＝選択科目

授業科目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				学位授与の方針					備考				
区分	種別	科目名	単位数	1年		2年		3年		4年		1		2	3	4	5
				前	後	前	後	前	後	前	後						
【A群】 総合教育科目	f キャリア支援科目	キャリアデザイン	2				1					○		◎	○		